

世界遺産

コモド島クルーズの取材の話を受けた時、もちろん「是非、行きたい!」と即答した。
インドネシアにありながら、メナドやバリに比べてダイビングエリアとしての知名度はまだ低い。

「コモドラゴンの存在は知っているが……」と思いながら

早速インターネットで情報を集めるが、海中世界のことはほとんどなかった。

ならば、ボクがしっかりと潜る込み、なるだけ詳細な情報をお伝えしよう!と勝手な使命感にかられ

2006年3月2日～9日の行程でSouthern Star Cruise (サザンスタークルーズ)に乗り込んだ。

事前情報では、マクロが面白い海とあったが、HP上にはマンタの写真もちらほら紹介されている。

さて、世界遺産コモドの海の本当の姿はいかに……?

コモド諸島 海域クルーズ

日本人マネージメントによる
安心して快適なSouthern Star Cruiseが就航

Photo & Text Yasuaki Kagii

Special thanks World Tour Planners Southern Star Cruise



美しい稜線が延びる山々。
コモドの風景も見所のひとつだ



01



02



03

2つの海流が 交じり合う海へ

☒ 世界地図を改めて見直した。マレーシア半島スマトラから大きな弧を描いて東に延びる島々。そのラインはオーストラリアの上に位置するパプアニューギニアまで続く。海に目を向けると、その島々のラインよりも下はインド洋、上はフローレス海という記述がある。大きな潮の流れがこの島々の合間を行き来する。2つの海の要素がかき混ぜられる。「いったいどんな魚が行き来するのだろうか……？」そんな想像をしながら、クルーズ船に乗り込んだ。

☒ 初めて見たコモドの海は生き生きとしていた。サンゴが一面を覆い尽くし、それと同じくらいソフトコーラルやイソギンチャクなヤギの仲間なども生育している。場所によっては着底することが出来ないくらい鮨詰めになっていて、撮影にも一苦労した。他の周辺で見かけたダイナマイト魚の後も、コモド周辺では見当たらない。

海中でよく目立ったのはイナズマヤッコを始めとするアデヤッコ、チリメンヤッコ、ロクセンヤッコなどのヤッコの仲間。カラフルなリーフに負けないうらい自己主張するそれらの魚たちは、少し私たちに遠慮



04

気味に泳ぐ。見たこともない黄色いリボンスイートリップスの群れが根の周辺で迎えてくれた。初めて知る風景も多い。潮の当たる場所では、ロウニンアジの群れ、イソマグロ、ナポレオンフィッシュなども大型種も見られる。またバラクーダやギンガメアジの群れも見られるのだが、今回は残念ながら、雨季の取材で天候等に左右され撮影することができなかった。しかし、コモドの海の持つ魅力を垣間見る事は十分にできた。

- 01. 造礁サンゴが海底を覆い尽くす
- 02. こんなにキレイなソフトコーラルも見つかる
- 03. 岩陰で見つけたブルースポテッド ステンディングレイ
- 04. 海中で一瞬目に付くイナズマヤッコ



左からロクセンヤッコ、アデヤッコ、リボンスイートリップス、大型のコウイカ



ホヤを食べようとするウミウシ

世界遺産 コモド諸島海域クルーズ

ホワイト&ブラックマンタが 通年見られるコモドの海！

☞ 朝、7時に起床。本船はすでにマンタポイントの近くに係留していた。ガイドの2人がスピードボートでダイビングエリアに向かい水面に映るマンタを確認したと帰ってきた。

すぐにブリーフィングを行い、スピードボートに乗り込んだ。説明では潮の流れが1~1.5ノットで流れているとのこと。確かに水面の様子は川のようになっている。ポイントにボートを近づけると、ガイドが微妙な指示を出し、マンタの居る場所を確定する。水面に

マンタの両翼が何度も伺うことができる。ゲストの全ての用意が整い、海中にエントリーする寸前に、1枚の大きなマンタが水面からジャンプした。何の意味があるのだろう、歓迎しているのか？ それともこのエリア(彼らの楽園)で邪魔をするなど警告しているのか……？ その行動はやはり謎。

カメラを抱いたまま、水中に潜り込んだ。潮の流れを全身で大きく感じる。コモドの海は流れがある、と聞いていたが、その事前情報を確かに実感していた。いきなり、3枚のマンタが目の前に現れる。3枚は距離を保ちながら、リーフの上に向かって泳いでいた。

私たちは潮流に押し流された。リーフの斜面はガレ場なので、体を固定する場所がない。流れに身を任すだけで、逆泳してもそれは叶わない。80mほど流されると、リーフの最終地点に到着した。そこで巻く潮の中で、マンタは何度も旋回しながら、私達の前に泳ぎ現れた。想像していた以上にマンタはシャイで、接近をあまり許してくれない。もう少し潮の流れが緩やかならば、こちらでもアプローチに余裕を持てたが、強い潮流の中では、私は無力だった。時折、水面近くで口を開け、捕食しながら、泳いでいるマンタがいる。驚いたことにお腹の黒いマンタ、ブラックマンタも見受けられた。

これまでにアジアの海ではあまり見かけたことがない。結局、私たちの前に現れたマンタの数は十数匹だった。水面からもっと確認できたはずだったが。
☞ 前日、ガイド陣にコモドの海の凄さを見せて欲しいとお願いした。彼らが選んだポイントはこのマンタポイントだった。確かに極上のマンタポイントだった。数、遭遇率、そしてブラックマンタの登場。ガイド陣が「ここはまだ秘密のポイントなんだ」と放った言葉も納得できた。

マンタの編隊が何度も私たちの前で旋回する

可憐なクマノミの幼魚



キレイなインソギンチャクと共生するカクレエビ



岩陰で群れるキンメドキ



素敵な造形が広がる



ハダカハオコゼ



ブラックストライブドティーバック

それでも気になる大物情報

気になる大物情報だが、まずマンタに関しては、通年見られるとのこと。今回もマンタポイントで多くのマンタに遭遇することができた。多くは捕食のために集まるという。またリーフにはクリーニングステーションもあり、そこでの観察も行なわれる。その他の頂いた事前の情報に記載してあった大物についてガイド諸氏に聞いてみた。まずハンマーヘッドシャークはGili lawa Laut(ギリ ラウ ラウト)島周辺でクリスタルロックと双壁である大物ポイント・キャストロックでの遭遇率が高いそうだ。

ジンベイザメはコモド島の南側に位置するピンクビーチで最近の目撃例があり、ダイビング中の遭遇ではなく、個体を発見するとスノーケリングと一緒に泳ぐそうだ。またリンチャ島の南側、ヌサコテ島周辺のダイビングポイントであるカーニバルロックでの遭遇があるそうだ。このポイントは、サザンスタークルーズの3泊4日、5月6日の航海ルート上ではなく、また、水温が下がる(18℃)11月に遭遇率が高くなるという。——ジンベイザメに関して、狙って会える生物ではなく、運も味方につけ

たほうがよさそうだ。また、マンボウも同じとのこと。

人気、迫力のある群れで注目されるギンガメアジ、バラクーダの群れは、キャストロック、クリスタルロック、パツッポロンで期待できる。イルカに関しては今回の取材でもダイビングの行き帰りのスピードボート上から見る事ができた。種類はマイルカのようで、ジャンプを披露してくれた。他にハンドウイルカも見られるということだが、水中でのご対面はよほどタイミングが合わないといけないようだ。

マクロでも人気上昇中の コモドの海

実はアメリカ人のマクロ好きカメラ派ダイバーが、コモドの海を注目している。インドネシアの他の地域でマクロ撮影に夢中になっていた彼は、今度はコモドの海に標準を定めていると聞いた。確かに、インソギンチャクやホヤなどに彩られたカラフルなキャンパスがたくさん用意されているため、マクロに撮影は意外と楽だ。「こんな場所に、お魚がいれば良いな」と考えていると、なんとなくイメージしていたシーンに出会えることも多かった。もちろん、カメラ派ダイバーだけを虜にさせるわけではない。なんと言っても魚種の濃さは圧倒的で、また甲殻類、ウミウシなども豊富だ。ガイドも色々々と生物を教えてくれるが、自らも可笑しい生物を発見することもできる。1ダイブごとが宝探しのようなのだ。



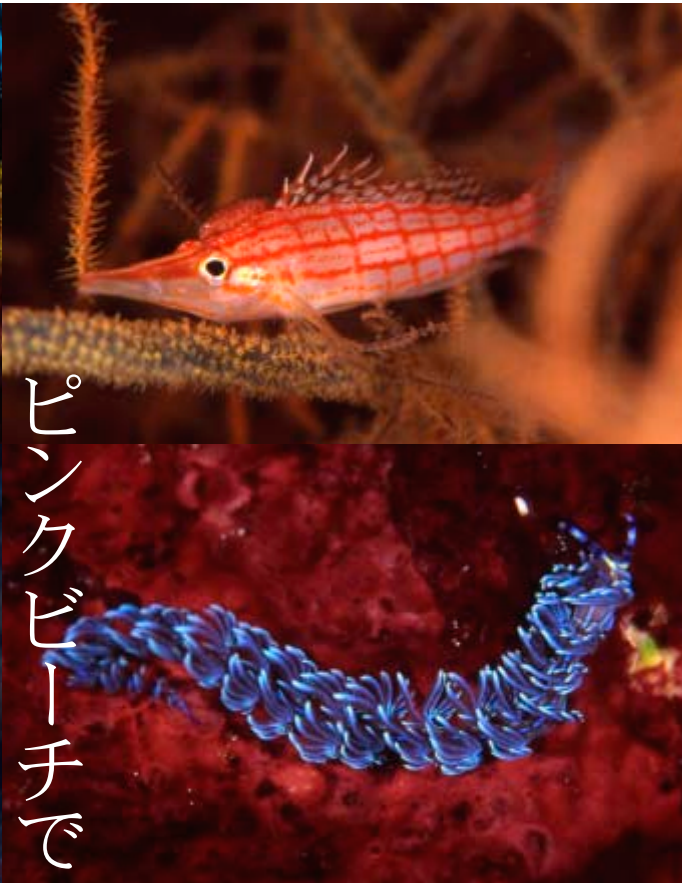
ちょこまかと動くプレニエーの仲間



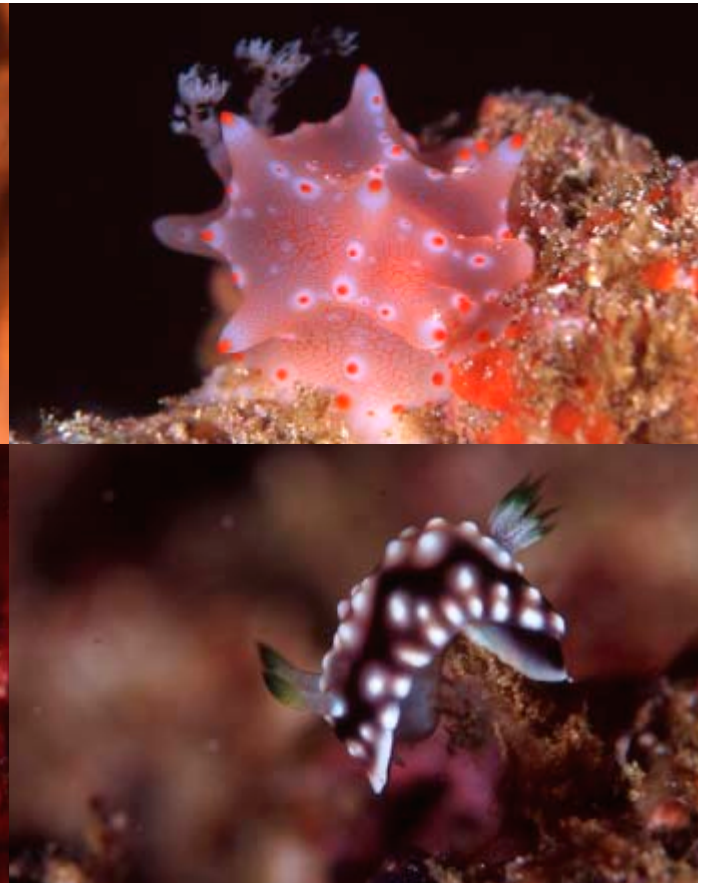
カラーバリエーションも多いヒペロドリス・ブロッキイ



マルチレベルダイビング



ピンクビーチで



(写真右上から)
 インバナなどカラフルな生物も多い
 リボンスイートリップス
 寄生虫が付いていたタゴゴンベ
 鮮やかなムカデミノウミウシ
 キュートなハルゲルダ・バタンガス
 小さなキカモヨウウミウシ



(左)キサンゴに群れるキンギョハナダイ
 (下)イシガキリュウグウウミウシ



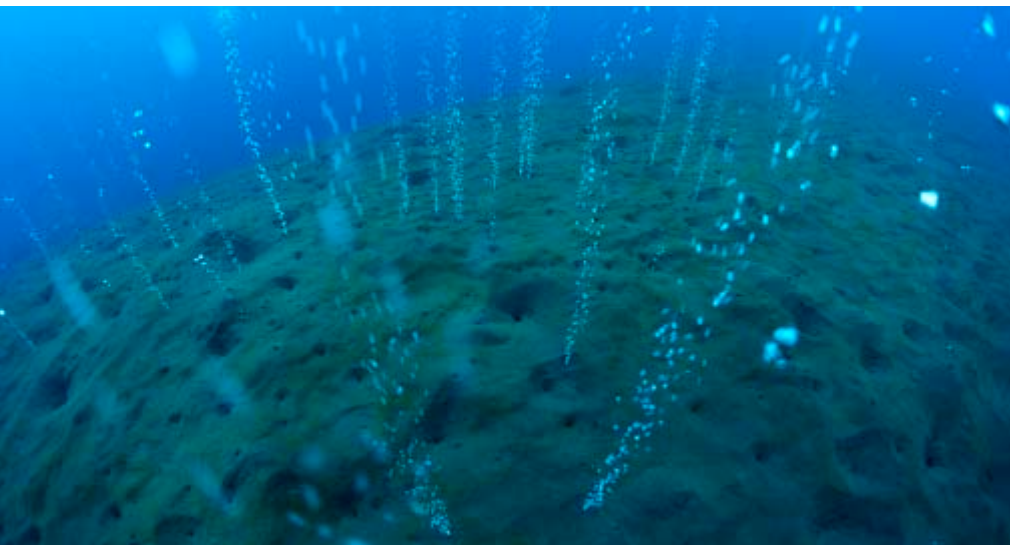
コモド島の南に位置するピンクビーチ。海岸線の少し沖合いにブイがふたつ設置され、その間でのダイビングとなる。イメージとしてはポート使ったハウスリーフ的なダイビングだ。コースは水中にある大きな根と周囲の砂地を潜っていく。

まず、砂地にエントリーして、そこに居るメギスの仲間やハゼなどの生物を観察。その後、水深を落として約28mの根に向かうとなんとゼブラバットフィッシュを見つけてしまった。美しい幼魚期ではなかったが、こんなヘンテコな生物がちゃんと棲息して

いることを確認する。その周辺にはキハッソクやタテジマヤッコなどが数匹で群れていた。緩やかな傾斜に沿って水深をゆっくりと上げていく。海外版イジマフクロウニは鮮やかな姿態でよく目につく。その後もウミウシなど小さな生物を観察する。このポイントは水深ごとに面白い生物が見つかるのでマルチレベルのダイビングでフィッシュウォッチングを楽しむことができる。浅瀬に到着すると、サンゴ礁の上に舞うタカサゴ仲間をカスミアジが狙っていた。最後まで気が抜けないダイビングポイントだ。



01



02

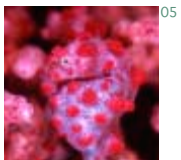
- 01. 勢い良く海中に広がっていくキンギョハナダイの群れ
- 02. 海底から途切れることなく小さな泡が続く
- 03. 上空から見たコモド諸島海域
- 04. 至るところで、生き物が見つかる。
- 05. ビグミーシーホースも定番種



03



04



05

日本発着8日間(現地5泊6日)のコースの場合 デンパサール〜コモド諸島海域までの航路でのダイビングポイント

デンパサール発〜コモド諸島、そしてコモド諸島周辺のダイビングを楽しむ5泊6日コースのクルーズ(日本発8日間)は、途中、Moyo(モヨ)島周辺、Sangeang(サンゲアン)島周辺、Banta(バンタ)島周辺でのダイビングを楽しむことができる。ポイントは火山が起因となる海中温泉や豊かなハードコーラル、ソフトコーラルが広がる手付かず海中風景が広がる。カラフルなコーラルフィッシュに迎えられ、潮の流れも穏やかな海域で、リラックス・ダイビングを楽しむことができる。

ホットロック

タンドック ラサ

HOT ROCK & Tanduk Rasa

水深5~8mの緩やかな傾斜の砂地からエントリーし、潮の流れに乗りながら、進んでいく。少し黒っぽい砂礫が続く海底にサンゴのパッチリーフが並ぶ。このような黒い砂地では生物の色が異なる。普段見る魚の色より少し濃く、メリハリのある体色は自己主張が強いように思える。少し見慣れた魚でさえも異なるトーンの色彩のために注目してしまう。そのまま進んで行くと、ドロップオフに繋がる。ガイドがこのドロップオフを「ビューティフルウォール」とブリーフィングで説明していた。黄色いウミシダがまるで蛍光色のように浮かび上がる。ハナダイやスズメダイなどが群れる。全体的にシックな色合いの海底風景だから、その鮮やかな色がより際立つ。この風景を美しいと形容するガイドの感性は好きだ。水深28mで3匹のビグミーシーホースを撮影。その後、ナポレオンやカンムリブダイの中型魚とご対面する。リーフの先端を回り込むと、白いムチャギが幻想的に揺れている。その先で待つガイドはもうすでに細かい泡のなかに佇んでいた。

砂地からポコポコと噴出す泡の縦ライン。水深は4~10m付近で緩やかに弧を描く砂地。まるで地球が湯だっているように思える。次々に魚たちもやってくる。

この海底温泉のあたりは水温がやや高い。朝一番にもってこいのダイビングポイントだ。小さく途切れるこのとない泡に体も心も温まりながら、水面に向かっ

てエキジットした。

Banta IslandのTanduk Rasa(タンドック ラサ)というポイントに潜り込む。Tandukとは現地の言葉で鹿の角という意味で、Banta Islandは2本の角のような形の箇所がある。エントリーしてリーフを左手に進んでいく。サンゴや腔腸類で豊かなリーフが続いている。

まず始めに見つけたのはアカボシハナゴイの群れ。背に赤い斑点をもつ美しい魚はリーフを撫でるように群れている。その中には見慣れないベラも交じり、アジアの海の持つ豊かな魚種に改めて感謝する。先端に向けて潮が早くなると、リーフを覆うキンギョハナダイが怒涛のごとく舞う。それはキンギョハナダイで有名な紅海に勝る勢いだった。リーフから溢れ出す様子は迫力に満ちていた。そんな風景を眺めながら、もっと先端へ向かう。水深30mあたりで、バラフエダイの群れとロウニンアジが見える。単体のバラクーダも登場する。先端を少し回りこむと、ナンヨウツバメウオの群れと、沖合にギンガメアジの群れを見つけた。そして、根を回り込み、静かなエリアでダイビングを続けていると、ムレハタタテダイの群れが中層で躍っていた。

このポイントで見られる群れはどれもさほど大きくないが、種類は豊富だ。潮の流れの強弱にもよると思うが、たくさん見所があるポイントだった。

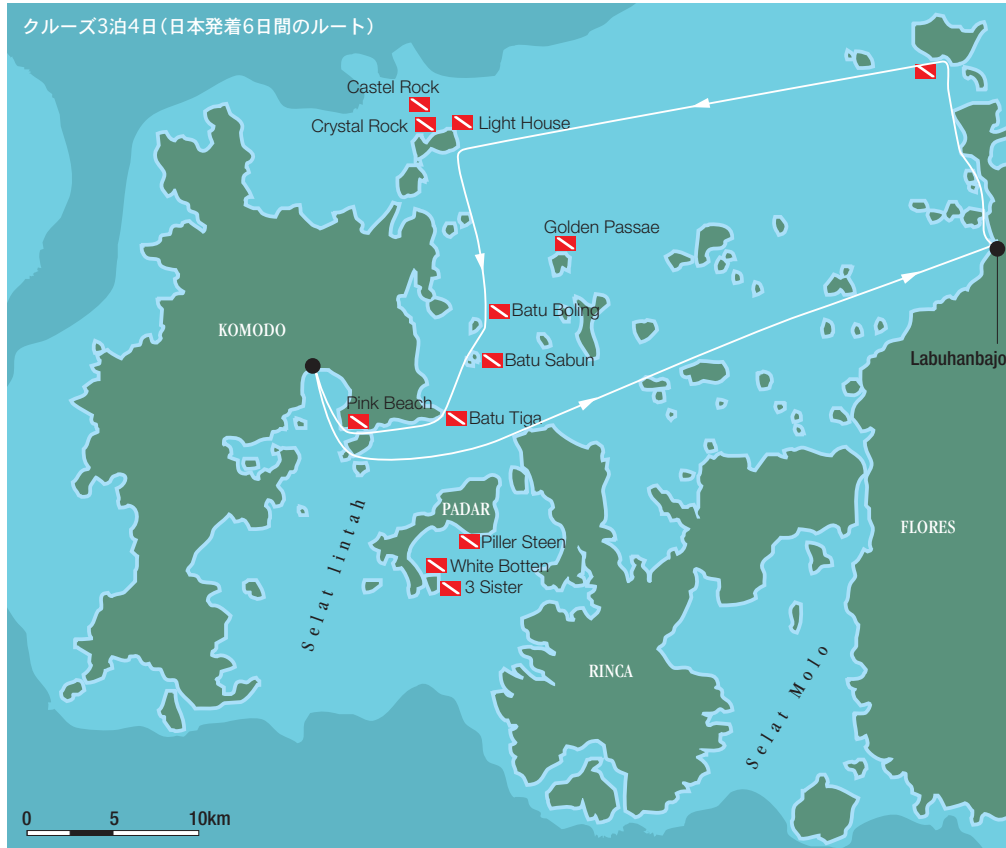
世界遺産 コモド諸島海域クルーズ

クルーズルート

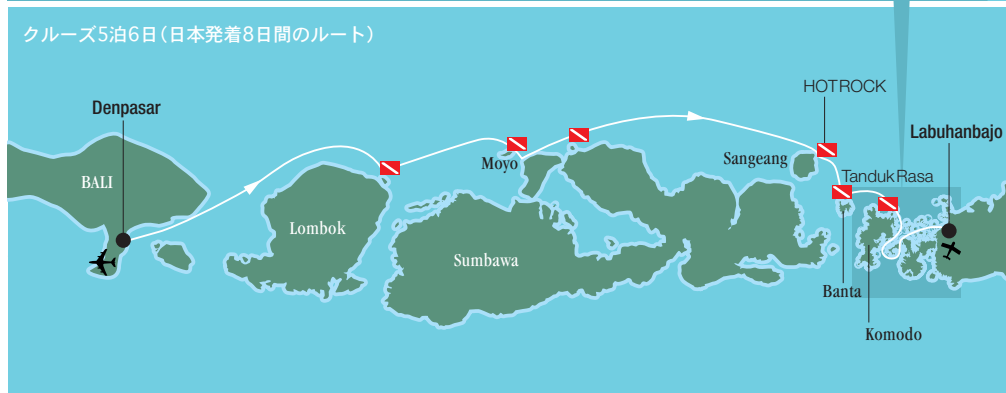
クルーズ3泊4日(日本発着6日間の行程)

1日目	午前	日本からデンパサール(インドネシア)へ	夕刻/夜	空港お迎え→ホテルへ (クタ泊)
2日目	午後	国内線デンパサール→ →ラブハンバジョー(フローレス島) 乗船後、Sablan Kecil(サボロンクチル)周辺・ 2ダイブ～移動 Gililawalaut島周辺で停泊		(ポート泊)
3日目		Gililawalaut島周辺でのダイビング・2ダイブ (Crystal Rock、Lighthouseなどを予定) ランチタイム(移動) Siaba島 Tataba島周辺でのダイビング・1ダイブ+1ナイトダイブ。 Siaba島周辺で停泊		(ポート泊)
4日目	早朝	移動 Pink Beach周辺でのダイビング・2ダイブ ランチタイム Pink Beach周辺でのダイビング・1ダイブ コモド、またはリンチャ島上陸観察(1~2時間) Pink Beach周辺でのダイビング・1ダイブ 夕食・BeachBBQ→夜移動		(ポート泊)
5日目	午後	国内線でラブハンバジョー(フローレス島)→ →デンパサール	夕刻/夜	国際線でデンパサール→日本
6日目	午前(朝)	日本着(帰国)		

クルーズ3泊4日(日本発着6日間のルート)



クルーズ5泊6日(日本発着8日間のルート)



コモド海域周辺の大物ポイント

Batu Bolong(バツウ ボロン)

コモド海域でも大物の遭遇できることで代表的なBIGポイント。潮の流れの当たるドロップオフ側でなく、その島陰でダイビングを行う。ロウニアジ、ギンガメアジ、バラクーダが群れを成し、カメ、イソマグロ、ナポレオン、メジロザメ、カスリハタ、ツムブリなど様々な種に出会えることができる。潮流がまりにも強い場合には、潜水することができず、ギャンブル性の高いダイビングポイント。

☞

Crystal Rock(クリスタル ロック)

コモド島の北東に位置するGili lawa Laut(ギリ ラウ ラウト)島周辺の大物ポイント。水中に大きな根が2つ鎮座し、その周囲でダイビングを楽しむ。潮の流れがあたる箇所からエントリーし、大物との遭遇を楽しむ。見られる魚は、ロウニアジ、メジロザメ、ナポレオン、マダラトビエイ、3種類のコショウダイの仲間などで時々マンタも出現する。潮当たりの良いドロップオフはソフトコーラルが覆い、また根の間の水深12m辺りは豊かなハードコーラルが広がっている

☞

Takad Haji(タカッド ハジ)

Moyo島の沖合いにある小島・Takad Haji(タカッド ハジ)のダイビングポイント。水中に鎮座する大きな根の周囲を潜る。潮の流れに乗りながら、リーフを右手に見ながらダイビングを進めていく。見所はビッグミーシーホース、ロウニアジ、マダラトビエイなどで、水深5~30mにまで落ち込むドロップオフの壁にはソフトコーラルが咲乱れる。ダイビングの後半に到着するスロープ状の砂地でもフィッシュウォッチングを楽しむことができる。

☞

Satonda(サトンダ)

Moyo島近くの島・Satonda(サトンダ)のダイビングポイント。島にあるレンジャーステーションの前のハウスリーフで潜る。水深13m~22mにある3つの根の周辺でダイビングを楽しむ。見所は、タツノオトシゴの仲間、コブシメ、カメ、タコ、エビなどの甲殻類。色彩豊かなトロピカルフィッシュと砂地のリラックスムードを楽しめるダイビングポイント。

ポイントガイド & クルーズガイド



Komodo islands sea area cruise
www.web-lue.com

世界遺産
コモド諸島海域クルーズ

Web-lue 2006. Spring

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/index.htm>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



01

恐竜の末裔と キュートな ピンクビーチ



03

キュートなピンクビーチと 恐竜の生き残り「生きた化石」と言われる コモドオオカゲが生息する島へ行こう

ダイビングを終え、陸カメを持ってピンクビーチに撮影に出掛けた。実はダイビングポイントとなっているピンクビーチよりもっとピンクの砂浜がある。遠目でも砂浜の色の違いを認識することができる。残念ながらお天気が悪かったので、少し輝きが足りなかったが、上陸する時は目眩がするほど不安定な感覚を覚えた。

マスクを付けて水中世界も覗いてみた。水底に着いた手や足に絡みつく砂塵のなかにほんのりと赤い粒が交じっていた。このピンクの素は鉱石の一種だと言われている。水中に広がるピンクのビーチは海色のコントラストに映え、極上のカーペットに変わっていた。誰かに教えたいような、でも秘密にしておきたいような不思議なビーチだった。



02



04

01. ピンクのカーペットが広がる浅瀬の海中世界
02. ノシノシと歩くコモドドラゴン
03. 少し赤潮のようにも見える？
04. 距離をおいてコモドドラゴンをみんなで観察する

コモド、リンチャ島の上陸観察

クルーズ中に、コモドまたはリンチャ島に上陸してコモドドラゴンなどの野生動物を観察することができる。リンチャ島の場合、島に到着後、レンジャーガイドの同行で約1時間の簡単なトレッキングを行う。まず、平坦なジャングルのなかを歩き、シカ、水牛、サル、イノブタ、ワイルドフラワー、毒クモ、貝の化石などを観察する。その後、小山の高台に向かい周囲の景色をパノラマで楽しむことができる。

コモドドラゴンは、コースの所々で見られ、また上陸で使用する栈橋や、レンジャーステーションの周囲などでも会える(すべて野生)。コモドドラゴンは8~9月が産卵期で、穴のなかで過ごすため、観察が難しくなるが、リンチャ島ではそのシーズンでも比較的外に出ていることが多い。



01



02

美味しい空気が デザートの 野外レストラン



03

無人島ビーチへ上陸して スターライトバーベキュー

クルーズ行程中に無人島ビーチへ上陸して、スタッフ&クルーがスターライトバーベキューを行ってくれる。ダイビングを終え、シャワーを浴びてさっぱりした後、スピードボートに乗り込んで無人島へ向かう。「無人島」というイメージから砂地だけの島などと想像していたが、到着したのは海岸線に木々が揺れる雰囲気のある島だった。準備の整ったテーブルセットに腰を下ろし、暮れ色に染まる景色のなかで、まずはビールで乾杯。焼き魚、イカなどの前菜から始まり、炭火で炙ったシュリンプ、チョリソ、牛とブタのソテーなどを御もてなしが続く。周囲が暗くなると、ランタンに火が灯され、柔らかなオレンジ色の光で包まれる。見上げる頭上にはたくさんの星が瞬き、舞台は最高の天然レストランへと変化する。



04

- 01. ランタンに火が点され、楽しい時間は続く
- 02. 焼きたて美味しいお魚をシェフが切り分ける
- 03. 美味しい空気の中最高の天然レストランが用意される
- 04. サテやエビ、美味しいものが続々と焼かれる



サザンスタークルーズ号では、バリ島のインドネシア料理店のシェフが乗船するため、クルーズ中は美味しいインドネシア料理、または和食を堪能することができます。他にイタリア料理や航海中に釣れたお魚のサ

シミなども調理してくれるので嬉しい限り。スケジュール次第では日本人シェフも同乗することもあるので要チェックだ！

下船後に体重が気になってしまう、 激ウマ・クルーズレシピ!!!

Komodo islands sea area cruise
www.web-lue.com

世界遺産
コモド諸島海域クルーズ

Web-lue 2006. Spring

基本メニュー例

- 朝 洋食(サンドウィッチ、トースト、ホットサンドなど)、サラダ、フルーツ、オレンジジュース、コーヒーなど。または、和食(ご飯、卵料理、味噌汁、お新香など)
- 昼 基本的には和食、おにぎりやラーメンなど。ダイビングの合間で胃の負担にならない食事。
- 夜 本格的なインドネシア料理が中心で日本ではあまり食べることない料理も用意。たまには慣れ親しんだ日本食なども織り交ぜる予定。

※ミネラルウォーター、コーヒー紅茶は無料。アルコール、ソフトドリンクは有料。

インドネシア料理(写真)

- 01. バクソアサム マニス(インドネシア風酢豚)
- 02. アヤム バンガン(チキンのインドネシア風テリヤキ)
- 03. アヤム プンブスリー(インドネシア風チキンの炒め物)
- 04. ウラッティム(ココナツ風味のサラダ)
- 05. フルグディル クタン(じゃがいものコロッケ)
- 06. カツパッチョ(牛肉)

 Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/index.htm>  情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

快適なクルーズのために



01



02

01. 広々としたダイブデッキ
02. ダイブデッキに通ずる空間。左にシャワー&トイレ
03. 広々としたリビングダイニング
04. TVコーナーでのんびり寛ぐこともできる
05. バンクベットの2人用部屋



03



04



05



06



07



08

06. 3人用の部屋
07. バンクベット2つの4人用の部屋
08. ダブルベットの2人用部屋

以前は四国でイルカウォッチング用の遊覧船として使用されていた大型船。ダイビング用のクルーズ船にリニューアルし、昨年、コモド島の来航した。2000年4月から本格的にコモド諸島海域ダイブクルーズを開始する。日本人のオペレーターによる快適なクルーズ船。日本人ダイブガイドが必ず乗船するので心強い。

1階はダイブデッキと客室、共同トイレとシャワー。
2回はサンデッキとリビングダイニング、キッチン。
3階は操舵室とサンデッキとジャグジーの3層構造。

Southern Star Cruise

サザンスタークルーズ



09. ジャグジーの用意されたサンデッキ
10. ダイブデッキにあるシャワー&トイレ

Ship Data

全長35m/総排水量300t/最大巡行速度12ノット
 最大定員 30名
 客室数 7室
 4人用 2室
 2人用 4室(バンクベット2室、ダブルベット2室)
 3人用 1室(ダブルベット1つ+シングルベット1つ)
 電圧100Vと220Vがある。変圧器(3つ)無料貸し出し



齋藤いほ子さん
(DIVING SHOP FREEDOM FACTORY オーナー)

コモド島周辺はまだ未開でこれかたたくさん発見がある海だと思いました。まだあまりダイバーが入っていないということで、これからの展開が期待される海だと思えます。お気に入りだったのは、ピンクビーチのダイビングポイントで、とにかく、見るもの、写真の被写体に溢れていました。クマノミの種類も豊富ですし、ウミウチワなどの腔腸類やウミシダの仲間などが並び、とても色彩豊かにリーフを彩っていました。テーブルコーラルの下を覗けば、ユカタハタも発見でき、ほんとに被写体に事足りないポイントでした。まさに「海の楽園」という表現がぴったりでした。

マンタポイントに関しては、残念ながらたくさん現れた1本目にはエントリーす



ることができませんでした。2本目のダイビングに期待してエントリーしたのですが、マンタが乱舞する事はなく、よくある通常の出会いでした。それでも、もちろん感動するのですが、1本目が「凄かった」と聞いていたから……少し残念です(笑)。マンタは水底近くを泳いでいたために、あおって撮影することが出来なかったことも心残りです。しかし、その周囲に広がるアワサンゴの群落はとても美しく、見応え十分でした。キンギョハナダイやスズメダイなどの小さな魚たちの数も半端ではなく、とても印象に残るポイントでした。今度はマンタ狙いで、またコモドに来て良いかな!? と思っています。



遠藤光衛さん
(WTPスタッフ)

コモドと聞いて思い浮かべたものは、やはりコモドドラゴン。あの太カゲが棲む海中に凄く興味を持ちました。なんとなく、ものすごい海を想像していたのですが、その期待は大きく裏切られました……。まず、天候が悪く有名ポイントに潜れなかった。曇天では気分も影響し、光の入らない海中はコーラルの美しさも半減、期待が大きい分満足度が上がらず終了。しかし、振り返って考えると、それぞれのポイントで見れた魚、コーラル、海底温泉、マンタポイントなどバラエティもあり、なかなか出会えない生物もいて良い海だと思う。念願のコモドドラゴンも至近距離で観察でき(匂いがそんなにしない?)、乾季に再度来訪し、コモドの海を再確認したいと思います。

コモド諸島海域クルーズのダイビング情報 + α

■ コモド周辺のダイビングポイントの総数 約30箇所

■ ダイビングスタイル

■ 潜水時間 45~50分(ダイビングの最後
に安全停止を行う)

■ 最大深度25~30m(ポイントによって多
少異なる)

■ 1グループに1ガイド若しくはアシスタ
ントが1名同行。1グループは8名まで。(最大
乗船人員16名)

■ エントリーは本船(サザンスタークルーズ)
からではなく、基本的にはスピードボ
ートに乗り移ってダイビングを行う。主流はド
リフトダイビング

シーズン

コモド諸島海域は2つの季節に大別される。4~10月末は乾季で、透明度は25mオーバーとなる。11~3月は雨季で、透明度は平均15~20m。雨季は一時的な降雨のみで水中環境にはあまり影響がない。スタッフに聞いたベストシーズンは6~9月。高い透明度で安定する。10月になると多少、雨が降り始める。

潮流

フローレス海(北側)とインド洋(南側)の間に点在するコモド諸島は、常に潮の流れがある。一般的にコモド諸島周辺海域は潮流が強いとされている。地形や潮の干満によってその強弱または方向が変わることがある。

水温

水温は乾季で24~27℃。雨季は22~27℃。コモド諸島海域では一般的にインド洋(南)側で水温が低く、フローレス海(北)側で水温が高くなる場合が多く、温度差は4~5度も違う場合がある。推奨するウェットスーツは5mmのワンピース、若しくはツーピース。フードベストなどがあれば、よりベスト。

気温

サバンナ気候に属し、気温は23~32度前後。特に乾季は昼夜の気温差によって肌寒く感じることもある。

アクセス

日本発着6日間の場合、デンバサル(バリ)からフローレス島のラブハンバジョまで、またはスンバウ島ビマまで国内線を利用。そこでクルーズ船乗り込む。

ラブハンバジョー

ラブハンバジョーはフローレス島最西端の港町であり、1kmほどのメインロード沿いにロスメンや雑貨屋などが並んでいる。この町が国内線を使用する場合の基点となる。

1日のスケジュール例

朝	起床
7:00	朝食
8:30~9:00	1本目のダイビング
10:30~11:00	2本目のダイビング
12:30~1:00	昼食
14:00頃	3本目のダイビング
18:30~19:00	ナイトダイビング
夕食(ナイトダイビングの前後になるか、スケジュール次第)	

※4本目はナイトダイビングとなる。3泊4日のショートクルーズの場合、2日目は必ずナイトダイビングと、コモド島、またはリンチャ島での上陸観察がある。

※上記のスケジュールは天候、海洋状況他によって異なる。



ラブハンバジョーの港の風景

コモド体験してきました!

Guest's Impression

Komodo islands sea area cruise
www.web-lue.com

世界遺産
コモド諸島海域クルーズ

Web-lue 2006. Spring

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/index.htm> click! 情報HPへジャンプ